

令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 新千葉 第1教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
支援に関する課題や意見を出しやすい職場環境である。	毎日のMTGの際に、お子様一人一人について振り返る時間を設けています。限られた時間ではありますが、事前に議題をまとめてきたり、ポイントを絞って会議を開催したりと、児童発達支援管理責任者を中心に支援の質を高めるべく話し合いをしています。	他機関とも連携を図りながら、より支援の質を高めていきます。
必要に応じて、学校・保育所・相談支援事業所などと連携が取れている。	保護者様のお声や教室での様子から、必要に応じて、定期的に学校、保育園との連携を取っています。実際に学校・保育園・幼稚園・他事業所などへ訪問をしてお子様の様子を見させていただいたり、職員間での関係者会議を開催するなどして、より多角的にお子様の成長をサポートできるよう取り組んでいます。	実施できているお子様がまだ少なかったり、頻度も十分ではないため、今後はより多くのお子様に対して実施ができるよう調整をしていきます。 また、定期的な開催ができるよう、密に連携を取っていきます。
災害発生などの緊急時対応について、研修・訓練が行われている。	毎月それぞれ約1回程度、避難訓練や各種研修を行っています。職員間での研修実施と、お子さんへ提供するプログラムへ組み込んだ形で両方で実施を行っています。	今後も月次で定期的実施し、マニュアル通りの対応だけでなく、イレギュラー時の対応についても想定できるよう、さらなる危機管理体制を整えていきます。

弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
お子様に分かりやすく（構造化）、安心して過ごせる環境（物理的・心理的）が整っていない	教室内に視覚的補助が少なく、クールダウンスペースの確保が難しい状況にあります。	必要に応じて、視覚的補助を増やしていきます。 パーティションを活用するなどして、児童の心理的安全を確保していきます。
お子様の活動内容や発達段階に応じたスペース（発達支援室・個別の部屋や場所）が確保されていない	複数の場面において、いくつも部屋を確保するのは難しいと考えている状況です。	パーティションを活用するなどして、個別に応じた空間確保の工夫をしていきます。
関係機関（相談支援事業所や学校など）からの助言を実際の支援に活かしていない点がある	関係機関との連携は、管理者が行うことが多いため、職員間で情報を十分に共有するのが難しい側面があります。	管理者だけでなく、全職員が相談支援員や専門職との連携を図れるように、内容について全体へ漏れなく共有をします。また、定期的に事業所内での会議や他事業所との連携会議を開催し、十分な連携と情報共有ができるようにしていきます。